

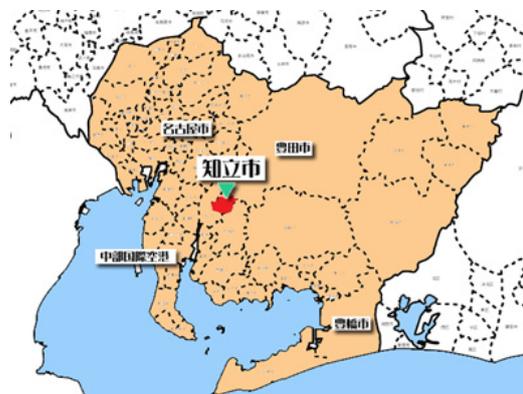
Ⅱ. 市街地の形成過程

1. 都市の形成過程

(1) 市の概要

本市は愛知県ほぼ中央部に位置しており、市域面積は16.31k㎡となっています。名古屋駅から約20分で結ばれているなど、名古屋鉄道（以下「名鉄」という。）名古屋本線、三河線、主要な国県道が交差する交通の要衝となっています。

図Ⅱ-1 知立市の位置



(知立市資料)

(2) 都市の形成過程

① 近世（江戸時代）における宿場町、集落の形成

古くから知立神社を中心に発展し、東海道沿いでは馬市場が開かれていました。1601年（慶長6年）に東海道の39番目の宿場として「池鯉鮒宿」が置かれ、以後、刈谷地域と東海道を結ぶ刈谷街道や、幡豆地域と東海道を結ぶ西尾街道の分岐点ともなり、交通の要衝として栄えました。

江戸時代の本地域の宿場町や集落の分布は、1890年（明治24年）の陸地測量部（現国土地理院）の地形図で、その名残を垣間みることができます。これによると、池鯉鮒宿のほか、奥州福島藩領地として陣屋が設けられた重原地区、鎌倉街道上の八橋、東海道上の牛田等の地区が主要な集落としてみられます。これらは現在の市街化区域のなかにおいても古いたたずまいのある市街地として残されています。

② 近代における鉄道建設と市街地の形成

江戸時代における宿場町と主要集落は、近代から現在に至る市街地のルーツを現しているものといえますが、大正時代に相次いで整備された私鉄路線網（現在の名鉄）は、本市にとっては知立駅を中心に放射状に広がり旧集落を結ぶ公共交通ネットワークとなりました。

なお、1960年（昭和35年）当時の人口集中地区（DID）の範囲は、概ね旧池鯉鮒宿を核として知立駅、三河知立駅、及び国道1号沿道地域を包含する区域となっています。

③ 市町村合併の経緯

1888年（明治22年）に町村制施行により、現市域に知立町・牛橋村・上重原村・長崎村が発足しました。その後、1905年（明治39年）にこれら1町3村が合併し知立町が誕生し、1970年（昭和45年）の知立市市制施行で現在に至っています。

明治の合併以前の旧町村は、概ね近代以前の藩領の区分や主要集落を中心とする生活圏に対応しているものと考えられます。

④モータリゼーションの進展と市街地の外延化

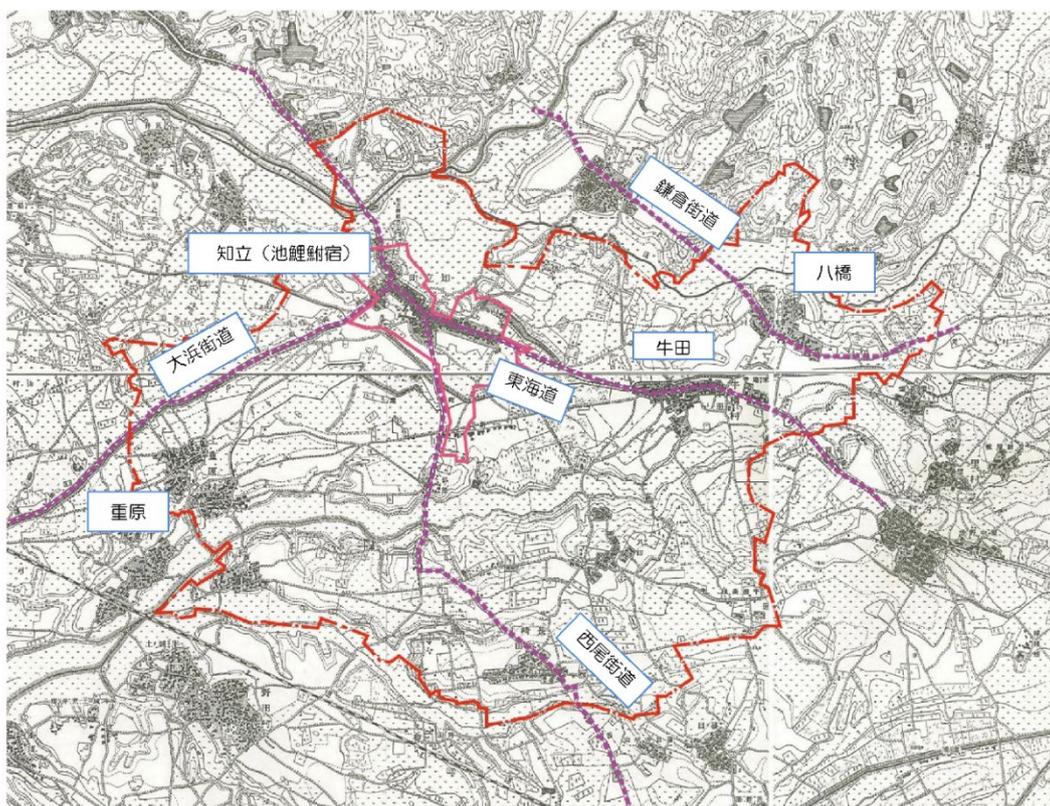
その後、高度成長期には縁辺部へと DID の拡大が進み、日本住宅公団の知立団地もこの時期、1966 年（昭和 41 年）に入居開始し、1970 年（昭和 45 年）にはすでに DID となっています。また、知立駅周辺の市街地は、旧宿場町に沿った区域の範囲を超え、西尾街道に沿って南側に大きく延びていますが、昭和末期から平成に入ると、さらに DID の拡大が進んでおり、モータリゼーションの進展を反映し鉄道駅の徒歩圏外における市街化が進んできたものと考えられます。

⑤東海道本線新駅の設置と新市街地の形成

東海道本線の東刈谷駅、野田新町駅の新設に伴い、これらの駅勢圏にあたる本市南部において新市街地が形成され、平成に入ってから DID が形成されています。

それ以前に形成された市街地が主に旧宿場町や街道沿いに発展したものと比較すると、こうした東海道本線新駅周辺の新市街地は、これら地域とは異なる生い立ちを持つ地域ともいえます。

図 II-2 明治期の知立市



(資料:明治 23・24 年測量の陸地測量部地図より作成)

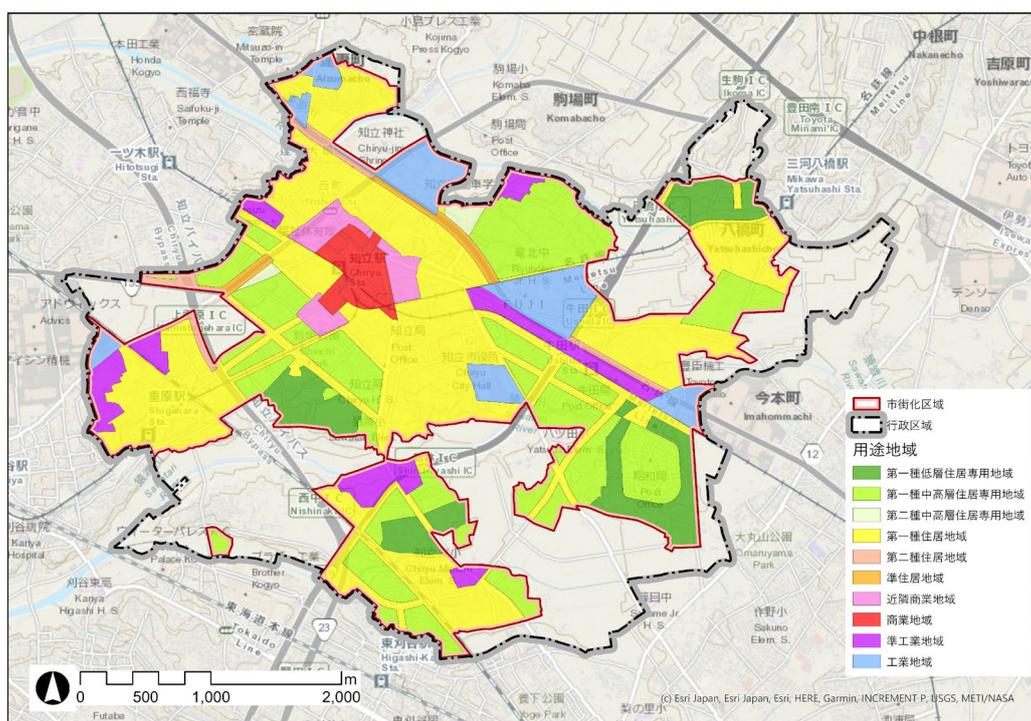
赤線 : 現在の市域 ピンク線 : 昭和 35 年人口集中地区 (DID) の範囲

(3) 都市計画制度の沿革

1970年（昭和45年）にすでに市街地を形成している区域及び概ね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域である「市街化区域」が定められました。現在は市域の約68%である1,108haが指定されています。

また、本市において、良好な都市環境の形成等を図るために建築物の用途、密度、形態等に関する制限を設定する「用途地域」が、1964年（昭和39年）に当初指定されました。現在の用途地域は、住居系用途地域（第一種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域）が約82%、商業系用途地域（近隣商業地域、商業地域）が約5%、工業系用途地域（準工業地域、工業地域）が約13%指定されています。

図Ⅱ-3 市街化区域及び用途地域指定状況



(資料:都市計画課)

表Ⅱ-1 市街化区域及び用途地域指定状況

用途地域	面積(ha)
第一種低層住居専用地域	100.0
第一種中高層住居専用地域	280.0
第二種中高層住居専用地域	6.8
第一種住居地域	494.0
第二種住居地域	15.0
準住居地域	13.0
近隣商業地域	26.2
商業地域	26.0
準工業地域	58.0
工業地域	89.0

(資料:都市計画課)

2. 鉄道網の形成過程

近代以降の本市及びその周辺における鉄道、主要道路網の形成過程は下の表のとおりですが、特に本市の市街地形成にあたって骨格となって影響を及ぼした鉄道の整備経緯を以下のように整理します。

表Ⅱ-1 本市及びその周辺における鉄道、主要道路の整備の経緯

年代	鉄 道	主要道路
1888(明治 21 年)	東海道本線（大府～浜松）開通 ・刈谷駅開設	旧街道を軸として国・県道網が順次形成された
1915(大正 4 年)	三河鉄道（刈谷～知立）開通 ・知立駅（現三河知立）開業	
1920（大正 9 年）	三河鉄道（知立～挙母）開通 ・三河八橋駅開業	
1923(大正 12 年)	愛知電気鉄道（神宮前～東岡崎）開通 ・牛田駅、重原駅（三河鉄道）開業	
1959(昭和 34 年)	・知立駅が現位置に移転	
1964(昭和 39 年)		国道 1 号知立バイパス開通
1966(昭和 41 年)	・東刈谷駅（東海道本線）開業	
1974(昭和 49 年)		国道 155 号バイパス開通
1983(昭和 58 年)		国道 23 号知立バイパス開通
1988(昭和 63 年)		国道 23 号と知立バイパス西中インターで接続
2004(平成 16 年)		衣浦豊田道路（有料区間）開通 平成 15・16 年伊勢湾岸道路豊田南インターチェンジ供用開始
2007(平成 19 年)	・野田新町駅（東海道本線）開業	

①東海道本線の整備

三河西部地域において最も早く開通した鉄道は東海道本線で、1888 年（明治 21 年）に大府～浜松間が開通、同時に刈谷駅が設置されました。

②臨海部と内陸部を結ぶ鉄道の整備

市内における鉄道建設は、三河湾臨海部と三河内陸部を結ぶ三河鉄道が最も早く、1915 年（大正 4 年）に刈谷～知立間、続いて 1920 年（大正 9 年）には知立～挙母（現豊田市）間が開通しています。

③名古屋鉄道の整備

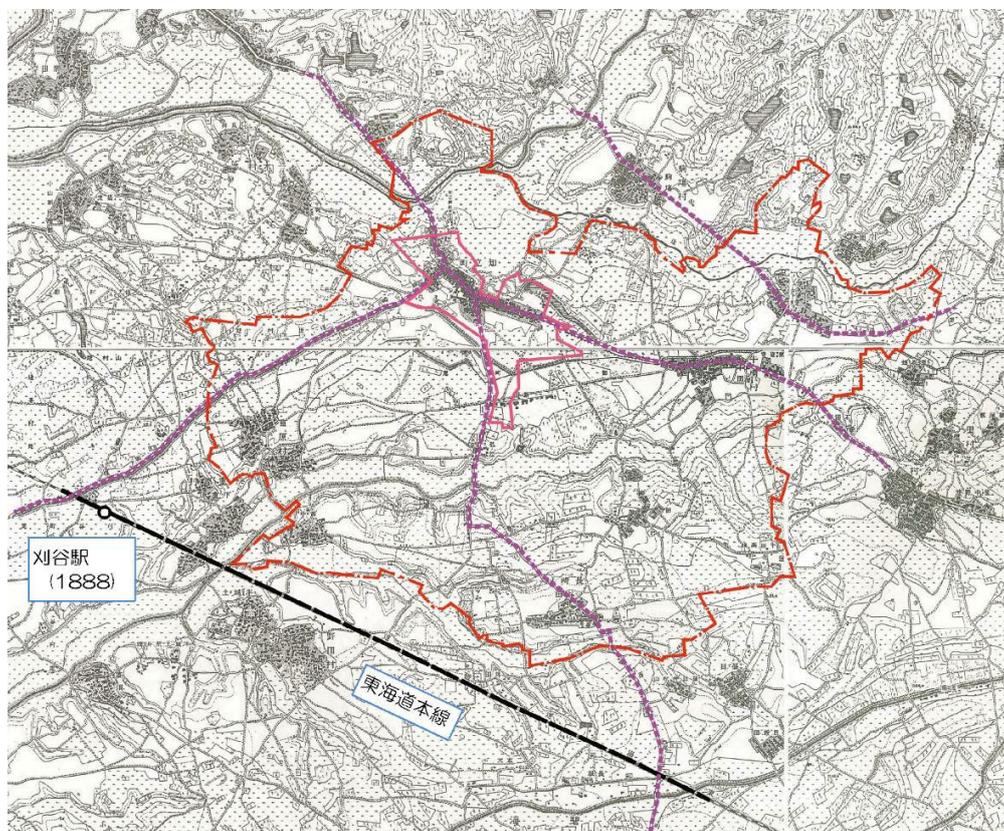
東海道本線を補完するとともに、名古屋都市圏の郊外路線の性格も持つ東西軸として、1923年（大正12年）に愛知電気鉄道（現名鉄）神宮前～東岡崎間が開通しました。これにより、知立駅は岡崎線（現名古屋本線）と三河線の結節点となり、本地域の公共交通体系として、知立駅を中心に放射状をなすネットワークが形成されました。

④東海道本線新駅の整備

本市周辺においては、東海道本線の開通当初、安城、刈谷駅が設置されましたが、その後、1966年（昭和41年）に東刈谷駅、2007年（平成19年）には野田新町駅が設置されました。

図Ⅱ-3 鉄道整備の経緯

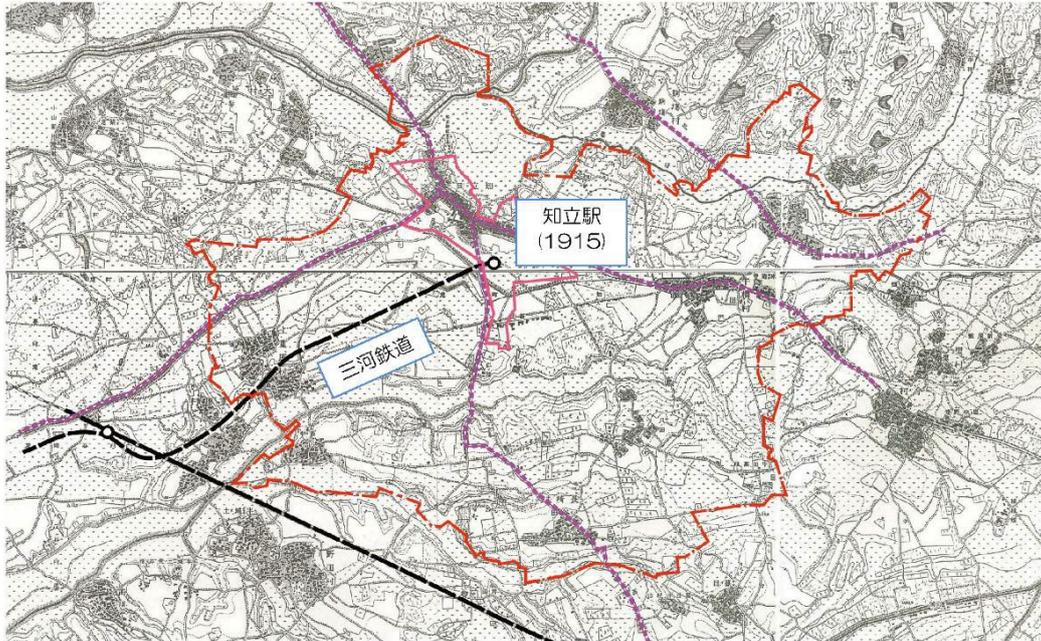
【1888年】



（資料：明治23・24年測量の陸地測量部地図より作成）

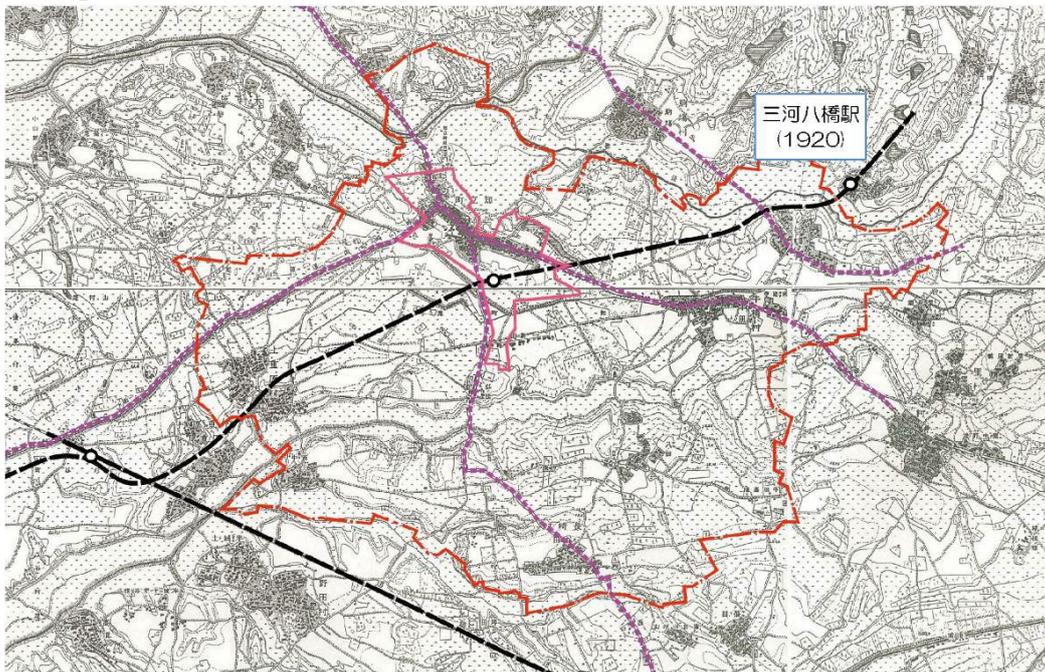
赤線：現在の市域 ピンク線：昭和35年人口集中地区（DID）の範囲（以下同じ）

【1915 年】



(資料: 明治 23・24 年測量の陸地測量部地図より作成)

【1920 年】

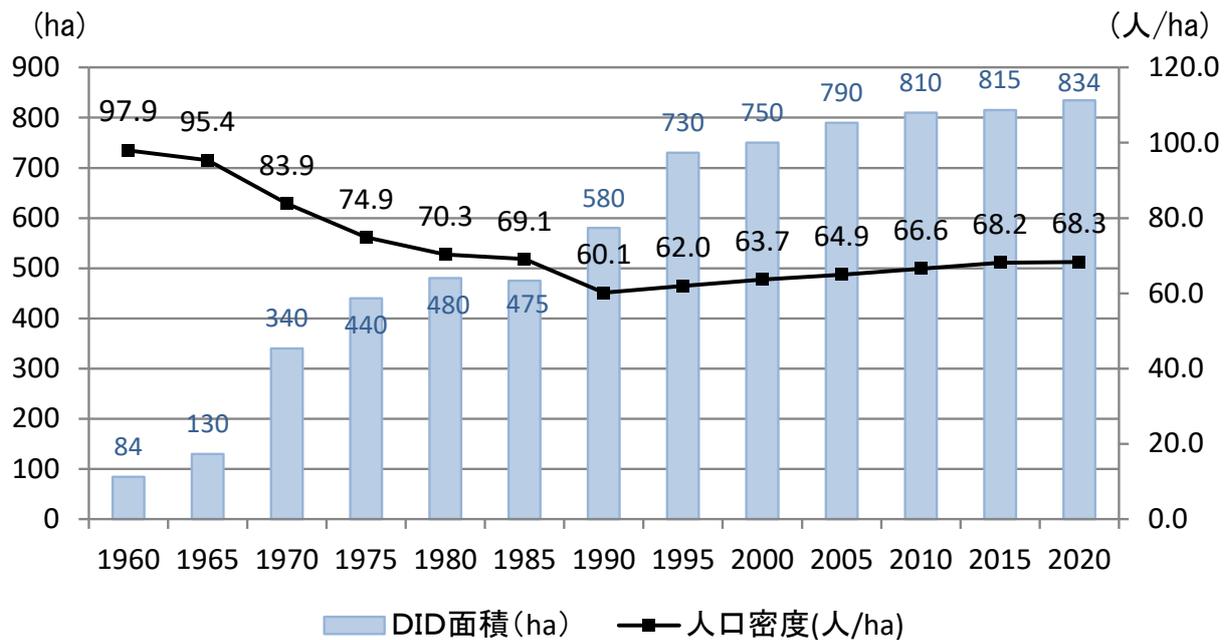


(資料: 明治 23・24 年測量の陸地測量部地図より作成)

3. 人口集中地区の変遷

1960年（昭和35年）では、知立駅、三河知立駅周辺の中心部に DID が形成され、DID の面積は約 84ha、DID の人口密度は約 98 人/ha のコンパクトな市街地が形成されていました。その後、名鉄名古屋本線沿い及び北東部に市街地が急速に拡大し、それに伴い人口密度は低下し、1990年（平成2年）には約 60 人/ha となりました。1995年（平成7年）になると、南部の新林町から谷田町の市街地にも DID が形成され、2020年（令和2年）の DID の面積は約 834ha、DID 内の人口密度は約 68 人/ha となっています。

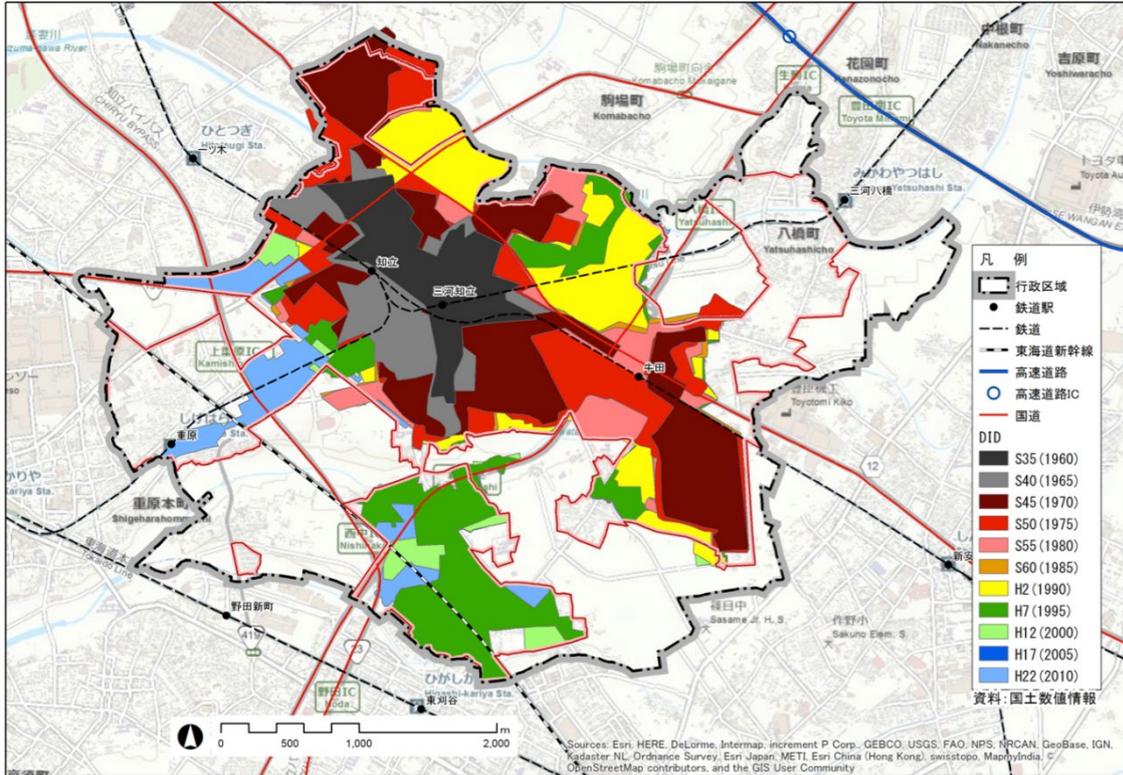
図Ⅱ-4 人口集中地区(DID)の面積と DID 内の人口密度



（資料：国勢調査）

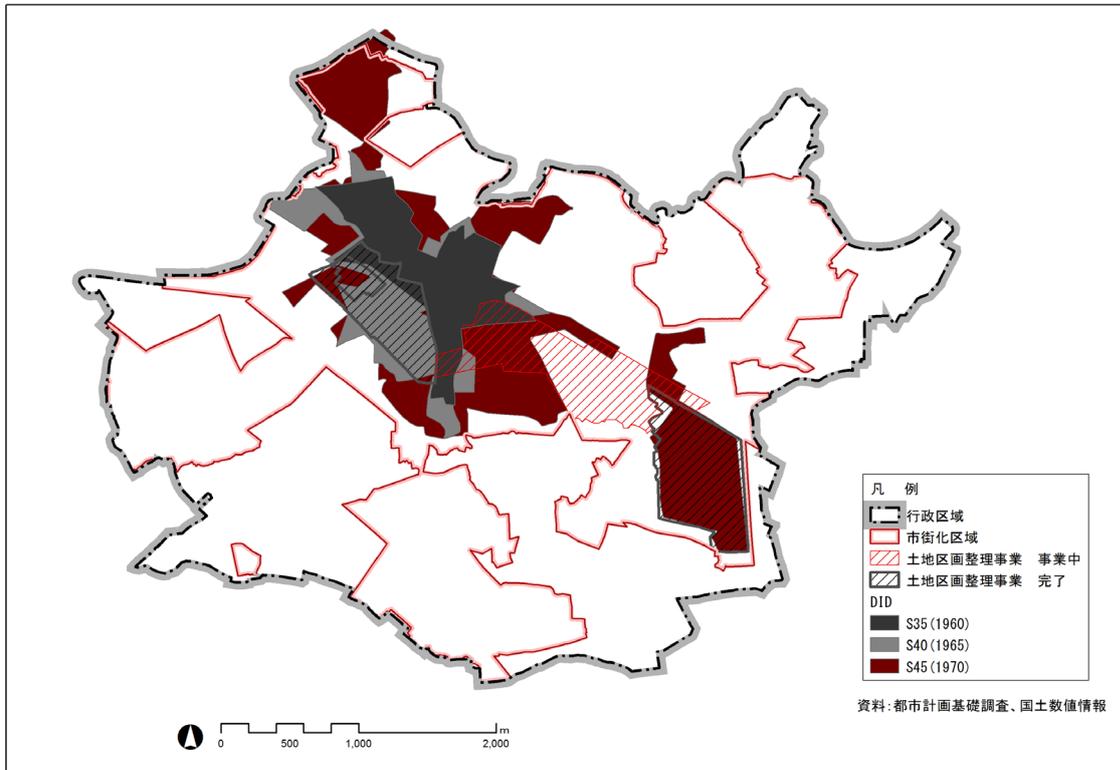
※DID(Densely Inhabited District)とは国勢調査で設定された区域で、人口密度が1ha 当り40人以上であり、当該地区内の人口が5,000人以上である区域

図 II-5 人口集中地区(DID)の変遷



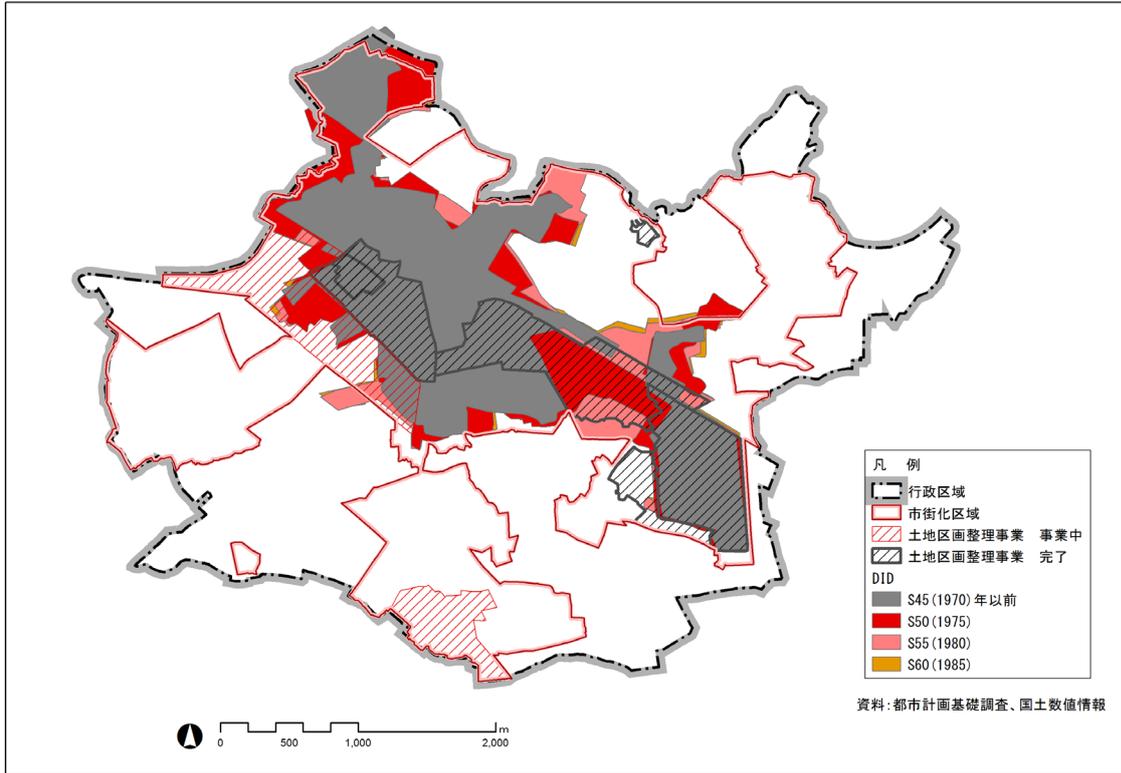
(資料: 国土数値情報)

図 II-6 昭和 30・40 年代の人口集中地区(DID)の変遷



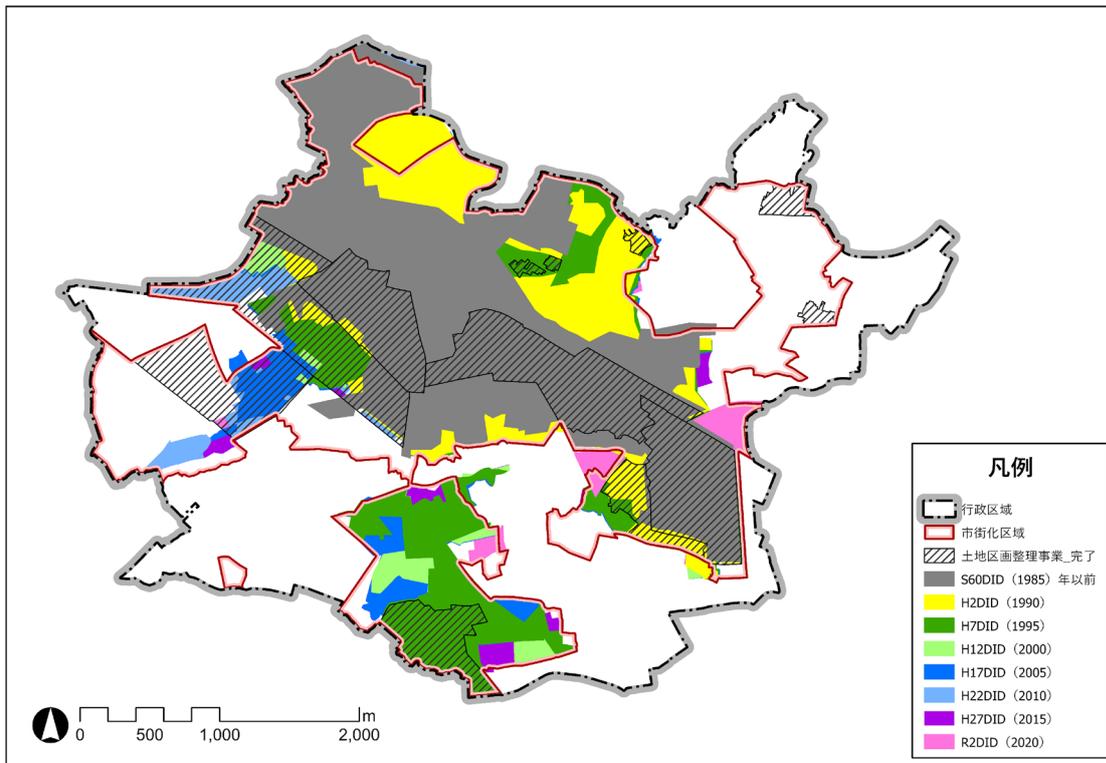
(資料: 都市計画基礎調査、国土数値情報)

図Ⅱ-7 昭和 50・60 年代の人口集中地区(DID)の変遷



(資料: 都市計画基礎調査、国土数値情報)

図Ⅱ-8 平成以降の人口集中地区(DID)の変遷



(資料: 都市計画基礎調査、国土数値情報)